

式 辞

ただいま、入学を許可しました357名の新入生の皆さんを迎え、本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、神奈川県立横浜翠嵐高等学校 第72回入学式を盛大に迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長したわが子の晴れ姿をご覧になって、さぞ頼もしく感じておられることであらうでしょう。心からお慶び申し上げます。

さて、新入生の皆さん、入学本当におめでとう。本校は、百年を超える歴史と伝統をもつ学校であります。その校風として必ず取り上げられる言葉に「大平凡主義」があります。これは、初代校長であります滝沢又市先生が生徒に話された「平凡主義」という言葉が、時代とともに「大平凡主義」という言葉になって現在に伝えられています。

「大平凡」とは、平凡であることを大切にする、平凡であることの価値を認めて大切にする、言い換えれば当たり前のことや小事を大事にして、一日一日を大切にするることなのです。どうか翠嵐生としての「平凡」とは何かを考え、それを当たり前に行えるよう努力してください。

そうは言っても、今の皆さんの表情を見ると、これから始まる高校生活に対する自信と少しの不安が混じり合っているように感じます。そんな皆さんが、これから横浜翠嵐高校での学校生活を送るにあたって、私から2つのこととお話ししたいと思います。

一つ目は、「皆さんの心の中に『ある思い』がないと、いくら高い目標を掲げても『行動』は生まれない」ということです。義務教育を終えた皆さんが、これから高校で学ぶ内容は、より高度で専門的になります。しかし、それらはこれからの社会で心豊かな生活をするための土台になるこ

とです。ですから、むずかしくて理解できない科目や好きになれない科目に出会ったとき、ぜひ簡単に諦めないでください。社会に出ると、世界には、また私たちの国には、答えが見つからないどころか、答えのない問題が山のようにあります。そのような問題に直面した時、安易に答えを求めてしまうような人間にならないために、これから3年間の学習を通して将来に対する『思い』を見つけ、その思いを実現するための目標をしっかりと立てて努力してほしいと願っています。

また、その過程では厳しいことやつらいこともたくさんあると思います。時には、自分だけでは抱えきれない不安や焦りを覚えることもあるでしょう。

そんな時は、「能力の差は小さいが、努力の差は大きい、継続の差はさらに大きい」という言葉を思い出してください。そしてもう一つ、そんな時にこそ、家族や友達、先生に相談をしてください。このくらいのことでと…悩みをためないことです。悩みに大小なんてありません。笑って相談できることも、真剣に相談したいことも「同じ悩み」だと思っています。

二つ目の話は、「未見の我」という言葉についてです。

安積得也（あずみ とくや）という人の「光明（こうみょう）」という詩に

自分の中には 自分の知らない 自分がある

みんなの中には みんなの知らない みんながある

という一節があります。

つまり「未見の我」とは、この詩のように、皆さんがまだ気がついていない自分自身のことを言います。義務教育を終え、高校生となった皆さんは、周囲の状況がどうであろうと、自分で自分自身をつくっていかなくてはなりません。

3年間の高校生活をとおして、ぜひ自分の中に秘められている、この自分も知らない未知の力、限りない可能性を

みつけてほしいと願います。実は自分自身というのは、自分にとって一番身近な存在であるにもかかわらず、自分の顔を直接見ることはできません。鏡や写真を通して、あるいは他の人が言ってくれることを通して、間接的にしか自分自身を理解することができない存在なのです。考えてみれば自分自身とは自分にとってとても遠い存在なのかも知れません。

だからこそ、毎日を何となく過ごすのではなく、目の前にあるものに真剣に粘り強く取り組み、「未見の我」を発見し、大きな夢や目標にチャレンジしてください。私たち職員もそのために努力を惜しみません。

ここで、保護者の皆様に一つだけお願いがあります。

私たち職員は、この学校を舞台にして、生徒一人ひとりの意欲や努力する心を育てながら生徒の皆さん一人ひとりの成長を、責任を持ってサポートしてまいりますので、どうか学校に足を運んでいただき、授業参観や学校行事をおして、「お子様」の成長の様子を見守っていただきたいと思っております。

最後になりますが、新入生の皆さんが、横浜翠嵐生として自信と誇りを持ち、「初心を忘れることなく」、一人ひとりの夢実現に向かって、自らを磨き、鍛え、新しい自分を創造していくことができるよう、皆さんの努力と活躍に期待して式辞といたします。

平成29年4月6日 横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到